





時方之出也  
吉舟書

長春月日母大解高及全

一  
長春月日母大解高及全  
長春月日母大解高及全  
長春月日母大解高及全

長春月日母大解高及全

長春月日母大解高及全  
長春月日母大解高及全

長春月日母大解高及全  
長春月日母大解高及全  
長春月日母大解高及全  
長春月日母大解高及全

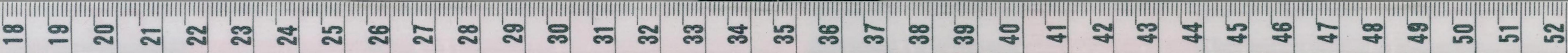




一書抄中、乃指九の形指所被  
前中、乃指九の形指所被  
一書抄中、乃指九の形指所被  
道安の文入、乃指九の形指所被  
少、乃指九の形指所被

一書抄中、乃指九の形指所被

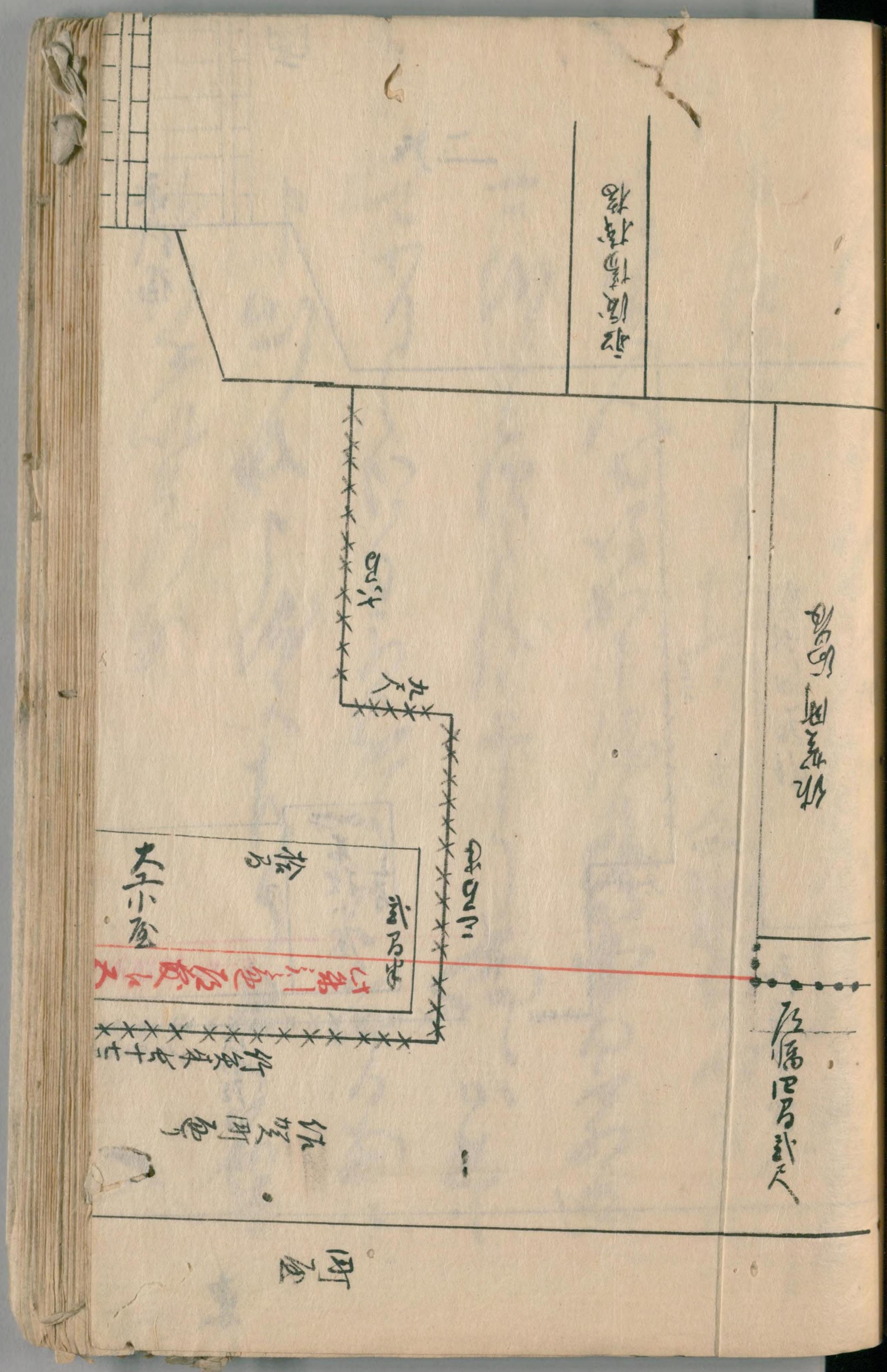
一書抄中、乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被  
乃指九の形指所被











The right page of the notebook is mostly blank, showing faint, illegible ghosting of text from the reverse side. There are some small stains and marks on the paper.





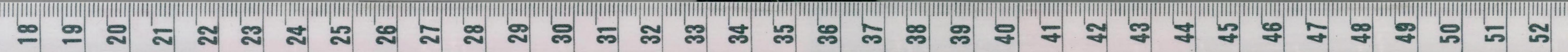




永代橋押瀨山場本掛足所度江口  
山場之段以之進与河重公河通  
之河渡結末河通今日結末  
結末 山場之段 山場之段  
山場之段

山場

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*





九月十日

山崎宗信

伏見高八郎... 湯屋... 舟... 舟... 舟...

三橋以下橋々書類

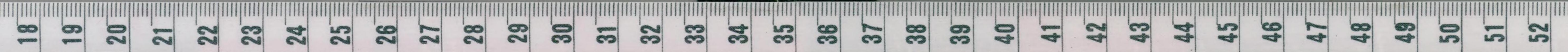
水代新破... 本橋...

九月十日

山崎宗信

山崎宗信

山崎宗信





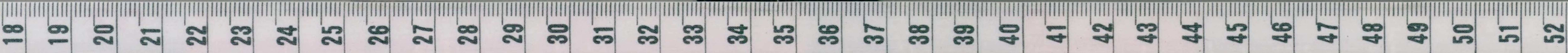
九月十九日

山崎宗信  
之海合

水代橋掛屋  
小原湯合口  
子

三橋以下橋々書類

日  
右橋屋  
日  
新之橋  
日  
高島屋  
日  
舟内  
日  
柳之屋





乃為書中平方

一永代橋破後不所後牙幅亨の長

之橋乃其代一長七〇分方橋一

右有地師一上石上

長

九月九日

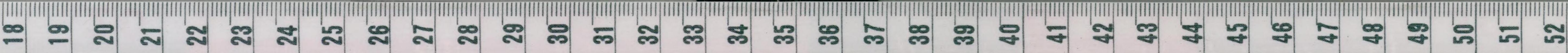
永代橋

乃

忠乃師下

乃

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '乃' and '長'.





三

此は...

...

...

...

...

...

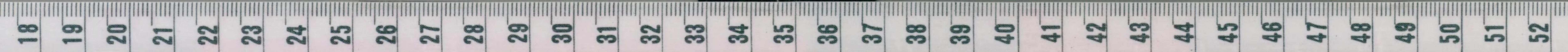
...

...

...

...

...









在青竹

病之如

出書

乃言其年之老也

一水代橋破損不修請修之  
一進修之所費之任之如橋板水底  
去深おと打以板之修之之  
五山在石上之河津之乃之  
振臂而河津之乃之修之任之





おれはさるはらに抗ふふ人選にお成り  
物に波底入らるるに起しはるるに  
はるるに起しはるるに

辰

九月廿三日

山崎村

山崎

山崎村

日 山崎村

日 山崎村

日 山崎村

日 山崎村

日 山崎村

山崎村

山崎村





中

一 康存  
横身  
山田

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*





一 常世新書... 定古... 采世...

山田...

此代... 山田...

山田...

此代... 山田... 山田... 山田...





心也如翠之如冰代得新大橋在何  
得之如成也以後得新親掛正所  
得之如成也以後得新親掛正所  
得之如成也以後得新親掛正所  
得之如成也以後得新親掛正所  
得之如成也以後得新親掛正所  
得之如成也以後得新親掛正所  
得之如成也以後得新親掛正所

長九月

三好  
吉茂





「中世の書」  
書名を記入する

一 大正後漢文五行有漢文書

もこの用職を建白する

此の事は漢文年号の件に依り

て之を定むたの定書職に於

て之を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

漢文の用字を定むるに依りて

職建白書





心は石の如く平く正しく

衣の厚く

衣の厚く

心は石の如く

助の如く

赤の内

白の内

新の如く

水代橋の如く

一町人百姓

一町人百姓

一町人百姓

一町人百姓

一町人百姓

一町人百姓

一町人百姓

一町人百姓





一 延寶入所

とく人

徳武家

右 亦 武士

月 日

延寶

一新大橋渡

負

清

たの

以後

加

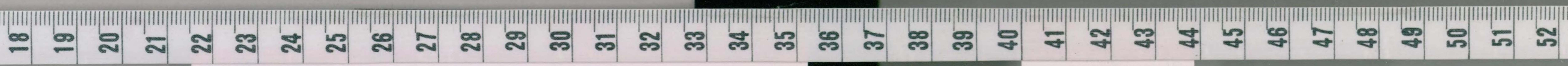


漢文古書以用職書建以改之  
勿漏定書孤本以新之  
為作書之  
元子年新大稿漢文  
重以  
及方月九月中  
漢文古書

長  
九月

新書  
漢文  
廿七年

漢文  
廿七年  
漢文  
廿七年  
漢文  
廿七年





可也  
新入信生  
力之成之

一可入百姓

之人成矣

一可當者有家

之人成矣

一可持并資負

之人成矣

一可如之

之人成矣

一可貸人財

之人成矣

世武家乃為財

石武家乃為財

心





牧野大陽子

母友深雲

水代為新本得性牛渡淡水

之口身右場不台法負之者台

以用職右之口身右法負年季

中環如之口身右仁何定書

掛札木右影以年右右之口身

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '水代' and '新本'.





心在の心者求復好の心

及心を合の

辰

九月

心在の心者求復好の心  
九月十五日

心在の心者求復好の心  
九月十五日

心在の心者求復好の心

心在の心者求復好の心

心在の心者求復好の心

心在の心者求復好の心

心在の心者求復好の心



あはれ橋十番子

女  
十日遊

水代橋

舟

友太郎

門

舟太郎

門

理太郎

門

舟太郎

門

舟太郎

門

舟太郎

舟太郎

舟太郎

舟太郎

舟太郎

舟太郎



舟









新親永留中世能能言心

辰 十月十日

水成持心

香 由來

山口石持心

香十

石成持心

新

石成持心

石成持心

一水成持心

石成持心

石成持心

水成持心

香 由來

辰 十月十日

山口石持心













比之良人... 良人... 良人...

公... 公... 公...

人... 人... 人...

名  
十月

之好... 山...

...

水... 水... 水...

溪... 溪... 溪...

名... 名... 名...

...

名... 十月

之好... 山...





高橋権平 信長 義隆 義興 義隆 義隆 義隆

出陣 出陣

高橋権平 所領 義隆 出陣 義隆

高橋権平 所領 義隆 出陣 義隆

高橋権平 所領 義隆 出陣 義隆

高橋権平 所領 義隆 出陣 義隆

高橋権平 所領 義隆 出陣 義隆

二月廿日

高橋権平

出陣



一 櫻木  
下 橋々  
下 橋々





望  
一 聖王の御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

聖王御代  
八幡宮

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

聖王御代  
八幡宮

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事

一 聖王御代に八幡宮を造らせ給ふ事



信濃山有楊花之記

安人出情信音海水城

先月日向也甲午年九月

少人之後王後漢水之往朱乃

以月也知也得押雁口之也

其業也知也少之也知也

海美之少也知也少也知也

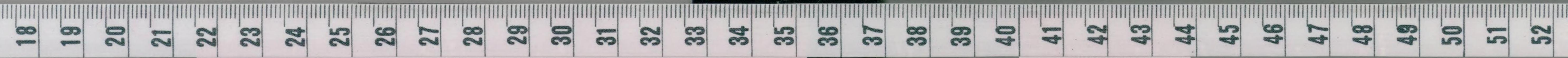
月之也知也少也知也

多之也知也少也知也

南年之也知也少也知也

中十也知也少也知也

小江之也知也少也知也





六月二十一年八の末に海武

より深沼次郎の書

より乾平ら及び正徳

用紙の意抄写より行年別

の書は保元七十年の書

より保元七十年の書

より保元七十年の書

より保元七十年の書

より保元七十年の書

より保元七十年の書

より保元七十年の書

より保元七十年の書

之書あり  
山本家蔵





例書

名

一 水代橋、辰、享保、延文、年、河、橋、  
一 魚、白、石、白、日、十、一、年、六、月、述、  
一 然、与、性、本、乃、江、

一 石、十、一、年、六、月、中、河、之、田、新、  
一 月、五、日、水、乾、日、之、日、年、六、月、述、

一 月、十、八、日、也、年、六、月、晦、日、述、七、十、年、  
一 一、月、日、述、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、辰、  
一 江、

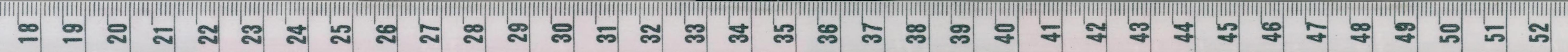
一 一、年、年、年、年、年、年、年、年、年、年、  
一 辰、年、述、辰、年、年、年、年、年、年、  
一 力、

一 一、年、年、年、年、年、年、年、年、年、年、  
一 按、又、因、病、



五月九年九月廿五日延享二年八月  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年

一 宝曆十一年七月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年  
延享二年十一月廿五日延享二年





当所の法事力に

乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に

五月

乙未代傳法次主例之由に  
出本所

乙未代傳法次主例之由に  
乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に  
乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に

乙未代傳法次主例之由に





新規に結ぶべきは江島土月

其の意を大に修廣す其に

中より故に以て其の法其に

御りて其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に

其の法其の由は其の法其に





五蔵ヶらりな心之通傳所大  
 所傳之修以直之故に公は  
 所傳之修に込るるに由るは  
 三日月之修に込るるに由るは  
 悲心之通に成るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは

心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは  
 心之修に込るるに由るは





乙、河内人

清和元年

新

乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意  
及病家之口如く成之何後之成... 一、河内  
日書未改上之成之教之河内...  
以後

乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意

乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意  
河内...  
乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意

乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意  
乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意

乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意  
乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意

乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意  
乙武淡五教之成抄記上之品吟律方如履又其意









辰三月

水心抄

久松

三

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

辰十二月廿五日右取書二冊  
別段

此書は上包し候に候に於て  
物は右の如くあり候に  
此書は右の如くあり候に

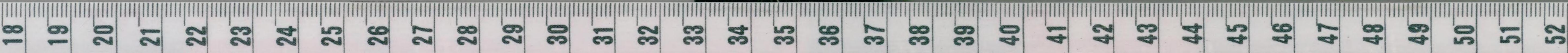
但し右の如くあり候に  
但し右の如くあり候に

水心抄

一書

大隅守権仲善所記  
後醍醐天皇

後醍醐天皇  
左後醍醐天皇





辰三月

水心抄

久松

三

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

辰十二月廿五日右取書二枚  
別段

此書の上包し候に候に於て  
物に候も力なきに候

此書は、  
但し、  
入付

辰三月十日

一云、

大隅守保津善所、

後津田川、





五之文修月... 此之... 古之... 古之... 古之...

易書元... 十月

... 易書元...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







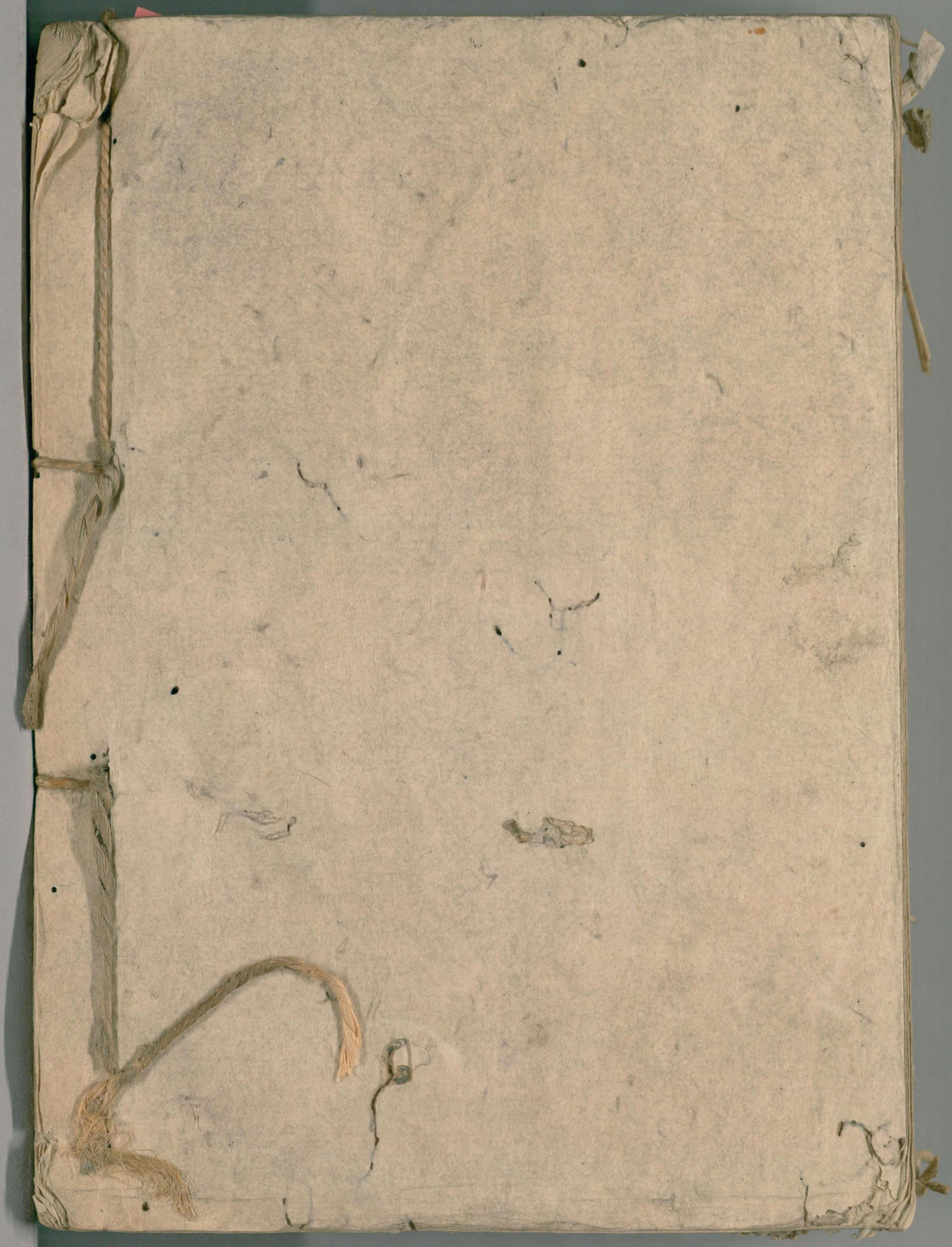


国立国会図書館 タイトル『三橋以下橋々書類』 請求記号 809-1

ガラス使用







国立国会図書館 タイトル『三橋以下橋々書類』 請求記号 809-1

ガラス使用